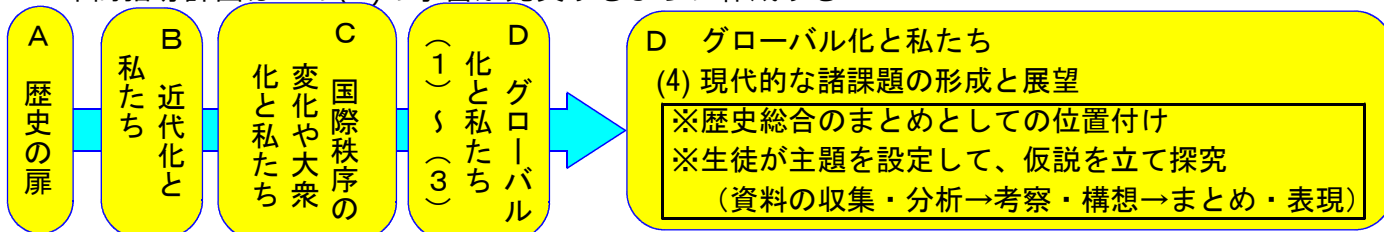


「歴史総合」のトリセツ

1 歴史総合の構造

年間指導計画はDの(4)の学習が充実するように作成する



※年間指導計画を作成する前に、「D(4)」の学習内容を理解し、学習活動を想定することが大切

2 歴史総合の大項目B～Dの構造（大項目B「近代化と私たち」を例に）

(1) 近代化への問い（1～2時間）

・歴史の大きな変化に伴う社会などの変容について考察し、生徒が問いを表現する。
・問いを表現する際に、社会の変化などを表す複数の資料（交通と貿易、産業と人口など）を読み取り、関連付けたりする。

(2) 結び付く世界と日本の開国（10～12時間）

(3) 国民国家と明治維新（10～12時間）

・(1)で生徒が表現する問いを想定して小項目ごとに主題を設定する。
・主題を踏まえて小項目を貫く問いを設定する。
・資料及び史実の知識を活用して設定した問いを考察し、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。

(4) 近代化と現代的な諸課題（1～2時間）

・(1)～(3)の学習内容を踏まえる。
・現在においても対応が求められる近代から残存している課題について、歴史的な観点（自由・制限、平等・格差など一対）を活用して主題を設定する。
・主題を踏まえた問いを設定する。
・諸資料を活用し、追究、解決する活動を通して考察・表現したり、(1)で表現した問いを改善したりするなどして、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。

※単元の指導と評価の計画を作成する際は、「(4)」の学習内容を理解し、学習活動を想定することが大切

（(1)で表現した問いや(2)、(3)での考察や理解の深まりを(4)の課題設定で活用するため）

3 歴史総合の授業の準備や進め方（大項目B「近代化と私たち」を例に）

① 大項目の構造を設計する。その後、小項目を単元として構造を設計する。
・(4)の主題を想定し、大項目の主題を設定する。主題に基づいた大項目を貫く問いを設定する。大項目は複数の小項目から構成されているので、小項目を単元として設定する。
・この時点で、大項目及び小項目（単元）の指導と評価の計画をそれぞれ作成する。

② 生徒が問いを表現する（「B(1)近代化への問い」）
近代化に伴う社会などの変化を示す諸資料から、情報を読み取り、まとめ、関連付け、興味・関心、疑問に思ったこと、追究したいことを問いとして表現する（例：列強は本国の人権を保障する一方、植民地で人権を抑圧したのはなぜか）。生徒が問いを表現できるよう、諸資料を普段から収集する（複数の教科書・資料集や原典、大学入試の過去問や論文、新聞など）。

③ 小単元ごとに「主題」及び「小単元を貫く問い」を設定（「B(2)(3)」）
・主題に対する小単元を貫く問い（大項目を貫く問いの解決につながるものとする）について考察し、その結果を表現することで理解にいたる学習活動を展開する。
・その際、「中国の開港と日本の開国」や「列強の進出と植民地の形成」の学習内容を活用する。教科書を網羅的に教えず、資質・能力を育成する視点で授業を展開する。

④ B(4)は諸資料を活用して追究したり解決したりする活動
・A及びB(1)～(3)までの学習を基に、歴史的な観点から現代においても対応が求められる主題と小単元を貫く問いを設定（主題はこれまでの学習を振り返るに適切なもの）する。
・諸資料活用して、例えば、「国境による人権の取扱いの相違」や「マイノリティやジェンダー」など、国や他者との間に境界線を引くことについて考察した上で、諸資料を根拠に「統合・分化」の両面から考察し、問いについて多面的・多角的に考察し、表現する。
・単元を振り返るため、「私にとって近代化とは何か」について表現し、他者と意見交換する（次の大項目C「国際秩序の変化や大衆化と私たち」につなげるようにする）。

※生徒の学習意欲を高めるため、生徒が表現する問いが、授業のねらいに基づき設定する主題に関連付けられるものになるよう、諸資料を用意するなど工夫する。（生徒が表現した問いの全てについて授業で取り扱い、解決しなければならない、というものではない）

※例えば、主題「国民国家の形成と国境の画定」、小単元を貫く問い「国民国家の形成と国境はどう関連するのか。また、国境の画定により、国境の彼方で人権保障の取扱いに相違が生じたのはなぜか。」

※例：歴史的な観点「統合・分化」、主題「国境線と境界線」、小単元を貫く問い「なぜ人間は、自分と他者の差別化を図り、棲み分けるのだろうか」

4 注意事項

(1) 何のために授業をするのか、明確に！

→「生徒に歴史を教える」のではなく、「生徒が歴史を使える」ようにしましょう。目標を見失いかけたら、科目の目標に立ち返り、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせられるよう授業をデザインし、ファシリテートしましょう。

(2) 「教科書を教える」授業では、科目の内容を終えることはできない！

→教科書は網羅的でボリュームがあります。全てを取り扱くと2単位では終了しません。「教科書を使って生徒の資質・能力を育成する」という視点が今まで以上に大切。